

報道機関各位



武庫川女子大学
Mukogawa Women's University

広報室

(Tel 0798-45-3533)

(E-mail kohos@mukogawa-u.ac.jp)

トルコ地震による被災建造物調査のため、 武庫川女子大学建築学部の教員が出発します。

2月に発生したトルコ・シリア大地震の被災地で、倒壊した建造物の調査や修復のアドバイスのため、武庫川女子大学建築学部の教員3人が12日、神戸市職員2人とともにトルコ共和国に出発します。

トルコのバフチェシヒル大学からの要請にこたえ、派遣を決めました。出発に先立ち11日、神戸市役所で武庫川女子大学と神戸市が会見を行いますのでお知らせいたします。

<会見詳細>

日時：2023年4月11日(火) 13時30分～(1時間程度)

場所：神戸市役所1号館16階 市政記者クラブ

登壇者(派遣者)：

武庫川女子大学建築学部建築学科

柳沢和彦教授・学科長 (建築設計計画学、建築設計)

鳥巢茂樹教授 (建築構造設計学)

田川浩之教授 (建築構造工学)

神戸市

建築住宅局建築指導部長 田中幸夫氏

危機管理室課長(計画担当) 能勢正義氏

なお、会見には派遣される5人のほか、武庫川女子大学建築学部の岡崎甚幸学部長も参加します。

<派遣日程>

2023年4月12日(水)～20日(木)

<派遣場所>

トルコ共和国イスタンブール、カフラマンマラシュ、ハタイ等

<主な日程(予定)>

- 4月12日 出国
- 4月14日～16日 カフラマンマラシュやハタイ等の被災地・避難施設を訪問・調査、被災自治体の首長等と意見交換
- 4月17日 バフチェシヒル大学(イスタンブール)を訪問、同大学で開催されるシンポジウムで講演
- 4月20日 帰国

武庫川女子大学は2008年にトルコのバフチェシヒル大学と一般交流協定を結んでおり、同大学と深い縁があります。とりわけ建築学部では、トルコ・バフチェシヒル大学から毎年10人の留学生を受け入れています。本学からは毎年約15人の大学院生を送り、オスマン帝国時代の宮殿の保存修復にかかる工房等を訪問して保存修復関連の実習を実施。上甲子園キャンパス内にあるトルコ文化研究センターではトルコの建築や文化に関わる展示と研究を続けています。2019年にはトルコ共和国のエルドアン大統領が上甲子園キャンパスを訪れました。2011年のトルコ東部のヴァンで発生した地震でも本学は神戸市と連携し、岡崎甚幸学部長らが被災地を訪問しています。

このような縁から、被災直後よりバフチェシヒル大学から現地調査の依頼を受け、訪問の時期を検討してきました。現地での瓦礫撤去が進んでいるため、「このままでは耐震構造的問題を明らかにする機会が失われる」と判断。バフチェシヒル大学の要請にこたえ、構造や設計に詳しい教員を派遣することにしました。

武庫川女子大学から現地に赴くのは建築学部建築学科の柳沢和彦教授、鳥巢茂樹教授、田川浩之教授の3人。阪神・淡路大震災を経験した神戸市から建築や危機管理を担当する職員2人が参加します。

被災地が広範囲にまたがるため、震源地のカフラマンマラシュを中心に、倒壊した建造物と周辺環境の被害状況を調査するとともに、復興計画について検討します。被災地からイスタンブールに帰り、シンポジウムを開催。帰国後は武庫川女子大学で調査結果や被災地の現状についてご報告する予定です。

なお、本学の派遣にかかる経費は、兵庫県の「トルコ地震復旧・復興応援プロジェクト」補助金を申請中です。

この件に関するお問い合わせは
武庫川女子大学広報室
kohos@mukogawa-u.ac.jp
(0798-45-3533) にお願ひします。



武庫川女子大学トルコ文化研究センター(上甲子園キャンパス内)



2011年10月にヴァンで発生したトルコ東部地震の被災調査に入ったときの岡崎甚幸学部長(左から2人目)